

日本三大祭りの一つ「天神祭」は7月24日に宵宮祭、25日に本宮祭を迎える。令和に改元され、新時代に入った天神祭を後世へ継承するため、大阪天満宮の寺井種治宮司と新教育総合研究会「個別指導キャンパス」の福盛訓代表に語り合つていただいた。

(聞き手は深田巧、写真は佐々木誠)

【大阪天満宮の「御祭神」である菅原道真公は「学問の神様」として知られています。福盛代表は氏地の大坂市北区東天満を拠点に学習塾を経営されています。

福盛 学習塾といえば、経済的に豊かな家庭の子どもを集めることが相場と思われていますが、私は、大

学時代に学習塾を開業して以降、授業料を安くしてどんな子どもでも引き受けています。

成績を上げることが第一の目的ではなく、「やればできる」という自信を持たせたい。日本人が大切にしてきた道徳心や感謝の気持ちも身に付けてさせたいと思っています。自分一人で生きているのではなく、周囲の人々と一緒に今を生きている。このことは、神様、神社、祭りにも通じるのではないかでしょうか。

寺井 私の長女は大学1年、長男は高校1年です。この春はダブル受験でした。私自身P.T.A活動などから学校の様子を見させていただきましたが、私が子どもたった頃との違いを感じました。一番驚いたのは、生徒が先生と友達のように接しているということです。時代の流れかもしれないようになります。その点、学習塾で道徳心を教えていることは素晴らしいと感じます。

【学習塾の経営理念に「三方よしの精神」を挙げていますね。】

福盛 親は子どもの成績が上がつてほしいと望んでいます。そのためには、学習塾は授業料をいただいているため、双方は売り手と買い手の関係にあります。私たちが「世間よし」も重視しています。つまり、先ほど話したように道徳心や感謝の気持ちを身につけた良質な社会人を育てることです。将来、社会に出て活躍できれば、まさに「三方よし」となります。

京都大大学院を卒業して外務省に入省し、その後、全国最年少で四條畷中学校長、四條畷高校在学時に私に有利よき世の中に役立つことの重要性を説いていたのですが、市政の学習塾に通っていました。在学中、駿市長になつた東修平さん(30)は、天神講の講師として、天神祭の講義を中心とした講義を行なっています。天神講はもともと江戸時代の寺子屋に

導します。また、天神祭の講義は子どもたちを中心に約800人が参加しています。野外活動でけがをする恐れもあるため、時には厳しく指導します。

【天神講獅子(てんじんこうし)】

寺井 大阪天満宮はボーカスカウト、ガールスカウトの育成母体にもなっています。野外活動でけがをする恐れもあるため、時には厳しく指導します。

【天神講獅子(てんじんこうし)】

福盛 獅子舞や金毎りを繰り広げます。天神講はもともと江戸時代の寺子屋に

端を発し、学問の神様の道真公を信仰した人々が講を作つたとされています。現在でも、天神講では上下関係や礼儀作法を指導していくある意味、福盛さんの学習塾と共通しているかもしれません。

福盛 大阪天満宮の取り組みはもっと知らしめるべきです。

【大阪天満宮の取り組みに関連して「世間よし」に通じる逸話がありますね。】

寺井 はい、昭和40年代のオイルショックの際は資金不足によって渡御行事がやむなく中止になりました。その時、大阪商工会議所会頭だった佐伯勇さんが境内の句碑・船渡御へ見せて浪速の「土性骨(どしうね)」「作・北山河」を見て、この句を手拭いに染め抜き、経済界に配つて協賛金を募り、渡御復活を支えてくれました。これも世間よしの精神だと思います。

【来年は東京五輪の開会式が7月24日にあり、天神祭の日程と重なります。警備員の確保が困難になると予想されますが、大丈夫でしょうか。】

寺井 五輪のために中止になるのはどんでもないという思いが氏子の皆さんにあります。来年も天神祭は予定通り執り行つつもりです。

【令和元年の今年、天神祭をどのように執り行いますか。】

寺井 「天皇陛下御即位奉祝祭」として執り行います。国歌斉唱、聖寿万歳をはじめ、本殿前や門前、乗船場にのぼり、懸垂幕も用いて祝意を表します。古代「八十島祭(やそしまつり)」という儀式がここ難波津にありました。天皇即位後の大嘗祭(だいじょうさい)の翌年、吉日を選んで使者を櫛津の難波津に遣わし、生島神(いくしまのかみ)、足島神(たるしまのかみ)、住吉神(すみのえのかみ)などを祭り、国土の発展、皇室の安泰を祈つたとされます。この「八十島祭」も天神祭に影響を与えたともされ、こうした話も発信していると思います。

福盛 政治に興味がない人でも、天皇退位、即位のニュースは関心が高いからはずです。時代が改まる改革があり、先達の人たちが受け継いできました。そこには神様の存在があり、地域のつながりがあります。自分一人では生きていけない。天神祭は確実に次世代の育成につながっていると思います。

【令和につなぐ天神祭について、学問の神様を切り口に語り合つていたいただきました。本日はありがとうございました。】

「天神祭は次世代の育成につながる」

代表

「礼儀作法を指導する天神講」

天神講

寺井種治宮司 対談 福盛訓之

てらい・たねはる 1963年生まれ。追手門学院大・國學院大卒。明治神宮福宣(ねぎ)、大阪天満宮権宮司を経て2018年4月から大阪天満宮第5・8代宮司。2001年に神道青年会全国協議会理事と神社本庁参与、06年に大阪市立堀川幼稚園P.T.A会長、12年に全国神社スカウト協議会会長、16年に大阪府神社庁理事と学校法人浪速学院理事。

ふくもり・としゆき 1973年生まれ。大学在学時の19歳で起業し、96年に新教育総合研究会「個別指導キャンパス」を設立。学習塾を全国約300教室で展開し、約1万6千人の生徒が在籍。第21回稻盛経営者賞第1位、第1回大阪府男女いきいき事業者表彰優秀賞、紺綵褒章など受賞歴多数。座右の銘は「大きな志、高い倫理観を持つ」。